

2023.03

TOYOBO
Beyond Horizons

TOYOBO インベスターズガイド 2022年度

東洋紡株式会社 (3101)



東洋紡株式会社

代表取締役社長 兼 社長執行役員

竹内 郁夫

新たな変革のスタート

2022年5月、東洋紡は、創立140周年を迎えました。

これを機に、コーポレートロゴを60年ぶりに刷新するとともに、「サステナブル・ビジョン2030」を策定しました。

ロゴの真ん中を走る曲線は、地球の輪郭、つまり地平線を示しています。このロゴには、人と地球に求められるソリューションを創造し続ける企業グループをめざす、東洋紡の存在意義「なすべきことをなし、社会をゆたかにする」（順理則裕）が込められています。

「サステナブル・ビジョン2030」では、今後の事業環境の変化を想定し、企業理念を基軸に、ありがたい姿とともに、サステナビリティ指標とアクションプランを示しています。めざすは、サステナビリティに貢献するサステナブルな会社、そして、企業文化の「持続可能な成長（サステナブル・グロース）」への転換です。

Beyond Horizons——超えていこう、もっと先へ

TOYOBO

Beyond Horizons

- I. 会社概要 (スライド 4~12)
- II. サステナブル・ビジョン2030、2025中期経営計画 (スライド 13~16)
- III. 2025中期経営計画における拡大事業 (スライド 17~20)
- IV. ESG (環境・社会・ガバナンス) (スライド 21~25)
- V. 株式情報 (スライド 26~27)
- VI. リンク集 (スライド 28~29)

I. 会社概要

- 基本情報
- 企業理念体系「TOYOBO PVVs」
- ソリューション別 売上高構成と製品例
- 国内・海外拠点、地域別売上高比率
- 歩み

社名：**東洋紡株式会社** ※2012年10月1日 東洋紡績株式会社より商号変更

創立：1882年（明治15年）5月3日

設立：1914年（大正3年）6月26日

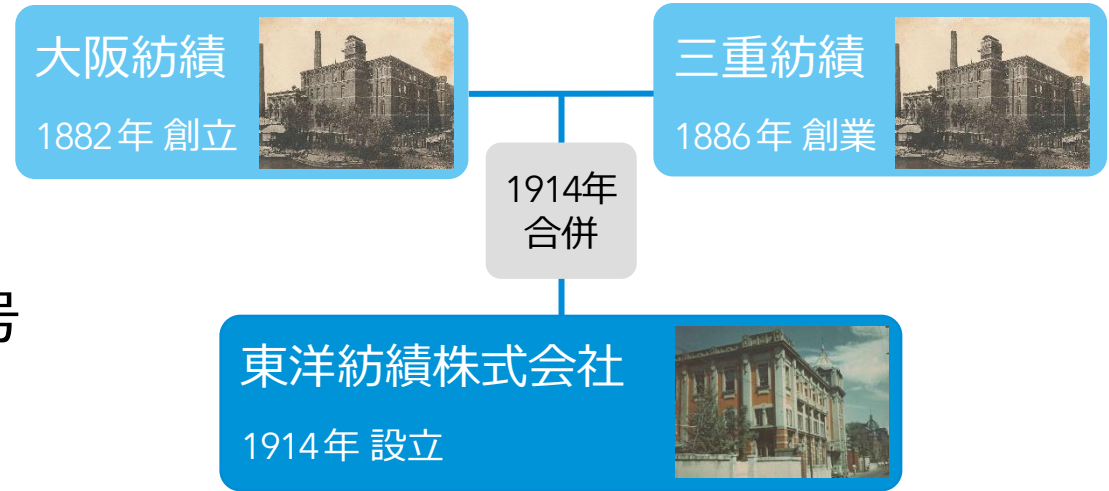
資本金：51,730百万円

本社所在地：大阪府大阪市北区梅田一丁目13番1号

従業員数：10,503名（連結）※2022年3月31日時点

事業内容：祖業は綿紡績

現在は、高機能素材（フィルム・機能マテリアル、モビリティ、生活・環境、ライフサイエンス分野における各種製品等）の製造、加工、販売



2022年5月に創立140周年

コーポレートロゴ刷新（2022年4月～）

TOYOBO
Beyond Horizons



創業者
渋沢 栄一

東洋紡グループの企業理念

『**順理則裕**』 (じゅんりそくゆう)

渋沢栄一の座右の銘の一つで、もとは中国・北宋の儒学者 程頤 (ていい) の言葉。道徳と経済を一致させることが重要であると説いた創業者の精神を受け継ぎ、当社の企業理念としている。



渋沢栄一が1921年に揮毫した扁額

企業理念体系「TOYOBO PVVs」

2019年、企業理念『順理則裕』をこれからの時代に照らして、体系化しました。「TOYOBO PVVs」は、私たちが積極的に社会をゆたかにし、自らも成長する会社へ進化するための礎です。



ソリューション別 売上高構成と製品例

ライフサイエンス 売上高比率 9.3%

- バイオ ● 医薬 ● メディカル



原料酵素



新型コロナウイルス
検出キット



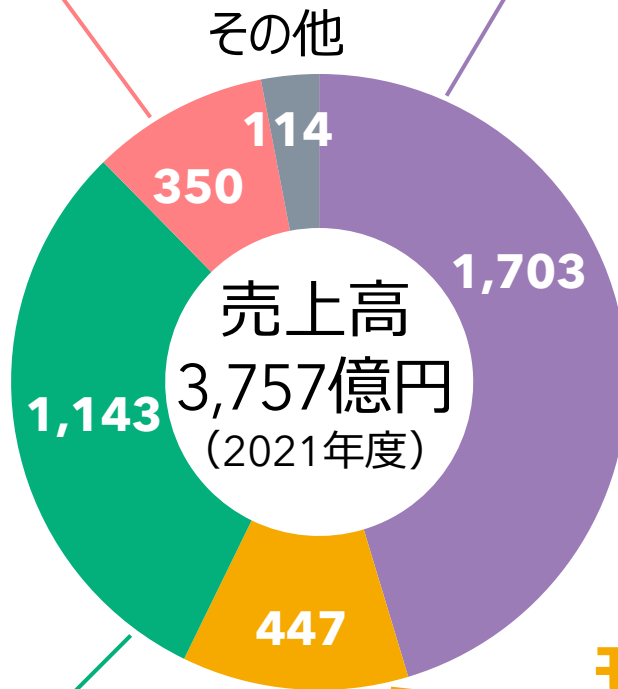
全自動遺伝子
解析装置



人工腎臓用中空糸膜



コラーゲン使用人工骨

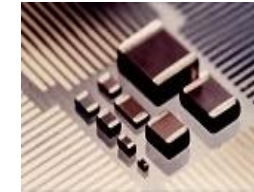


フィルム・機能材料 売上高比率 45.3%

- 包装用フィルム ● 工業用フィルム ● 機能材料



二元蒸着フィルム



セラミックコンデンサ用
離型フィルム



工業用接着剤



リサイクルPETフィルム



液晶偏光子
保護フィルム



印刷樹脂凸版

生活・環境 売上高比率 30.4%

- 環境ソリューション ● 不織布材料 ● 高機能ファイバー



海水淡水化用
逆浸透膜



VOC処理装置



3次元網状繊維構造体



スーパー繊維

モビリティ 売上高比率 11.9%

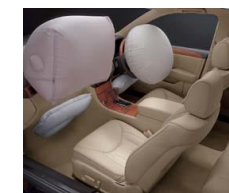
- エンジニアリングプラスチック ● エアバッグ用基布



熱可塑性
ポリエステルエラストマー



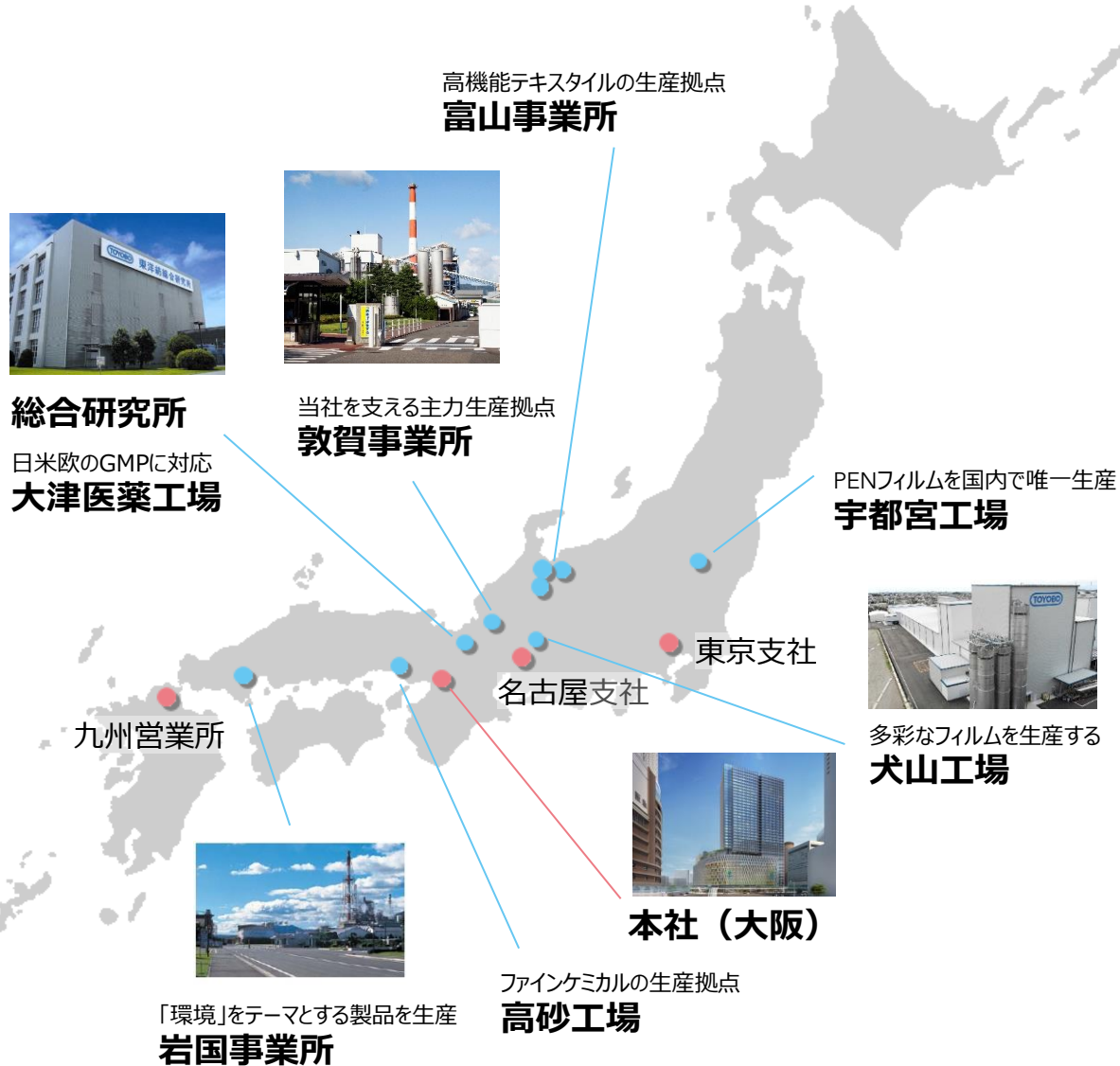
高機能性
ポリエステル樹脂



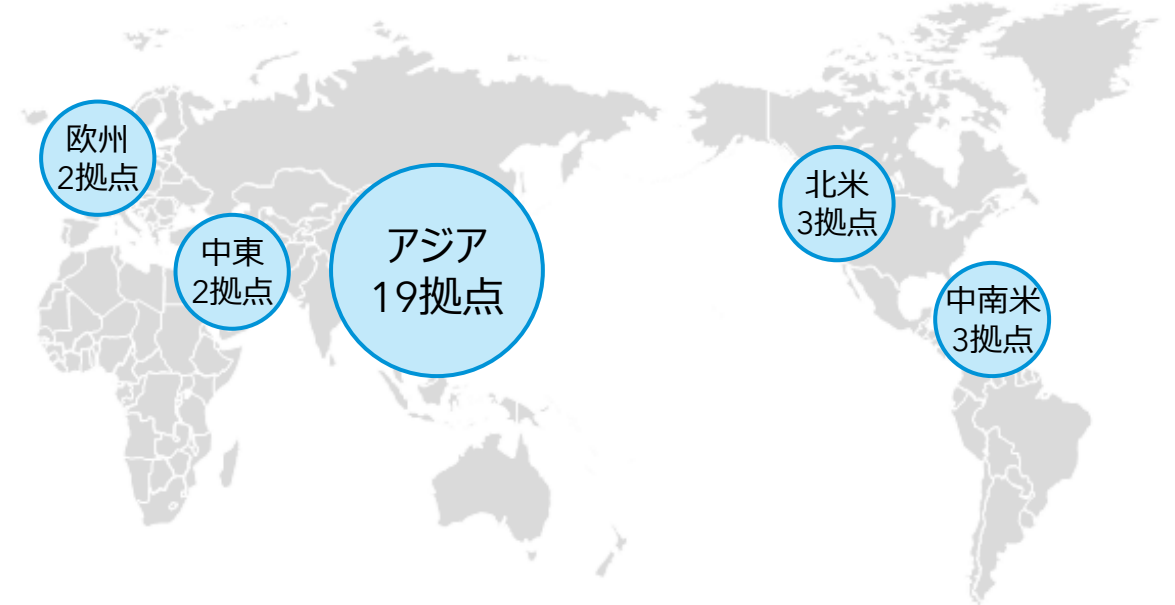
エアバッグ用基布

国内・海外拠点、地域別売上高比率

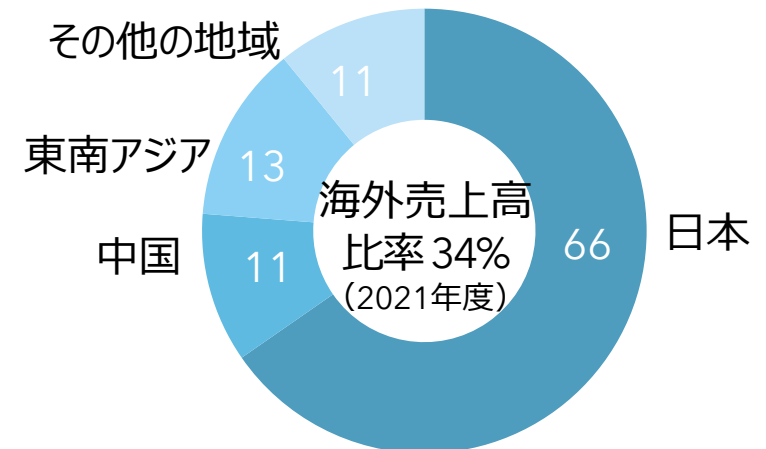
◆ 国内拠点



◆ 海外拠点



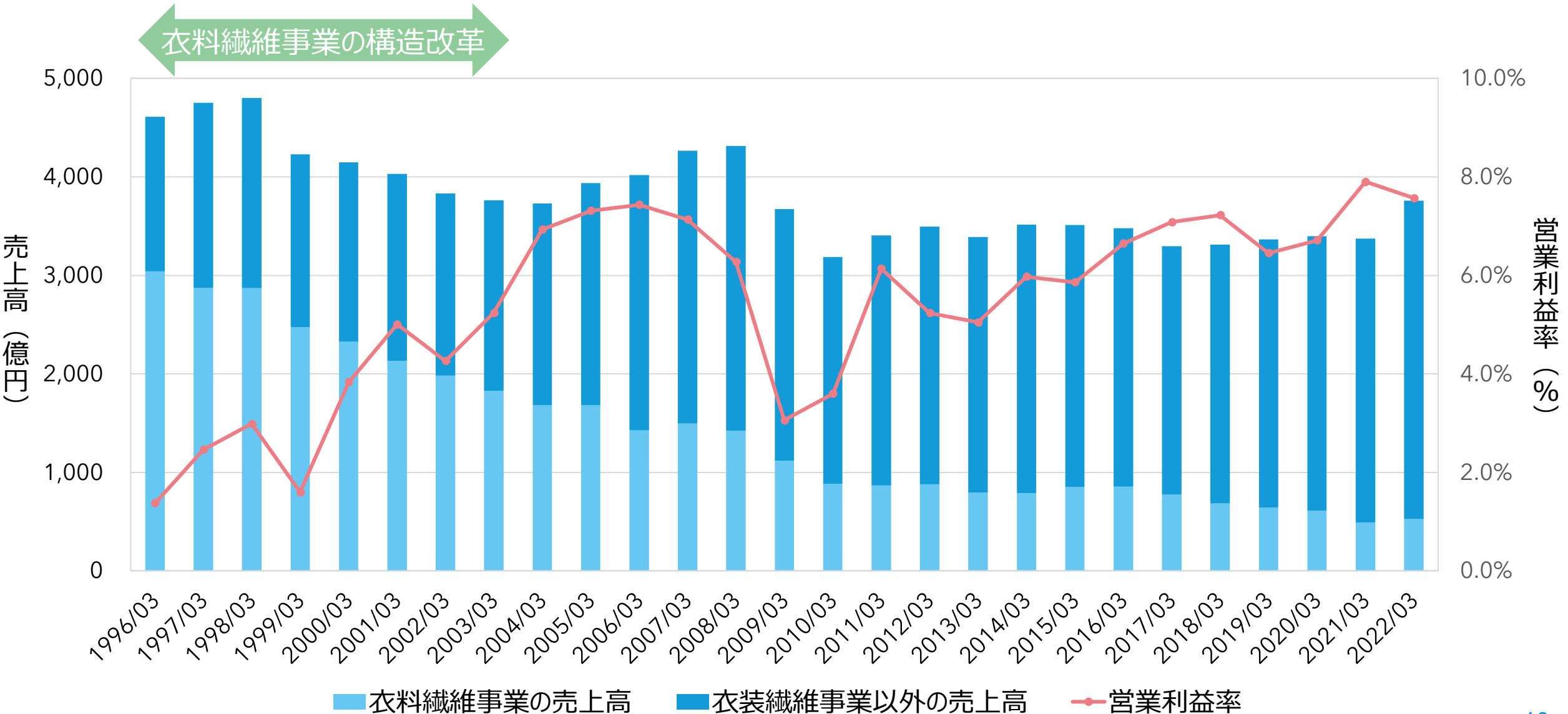
◆ 地域別売上高構成比率 (%)



歩み① 東洋紡の変化と技術の進化

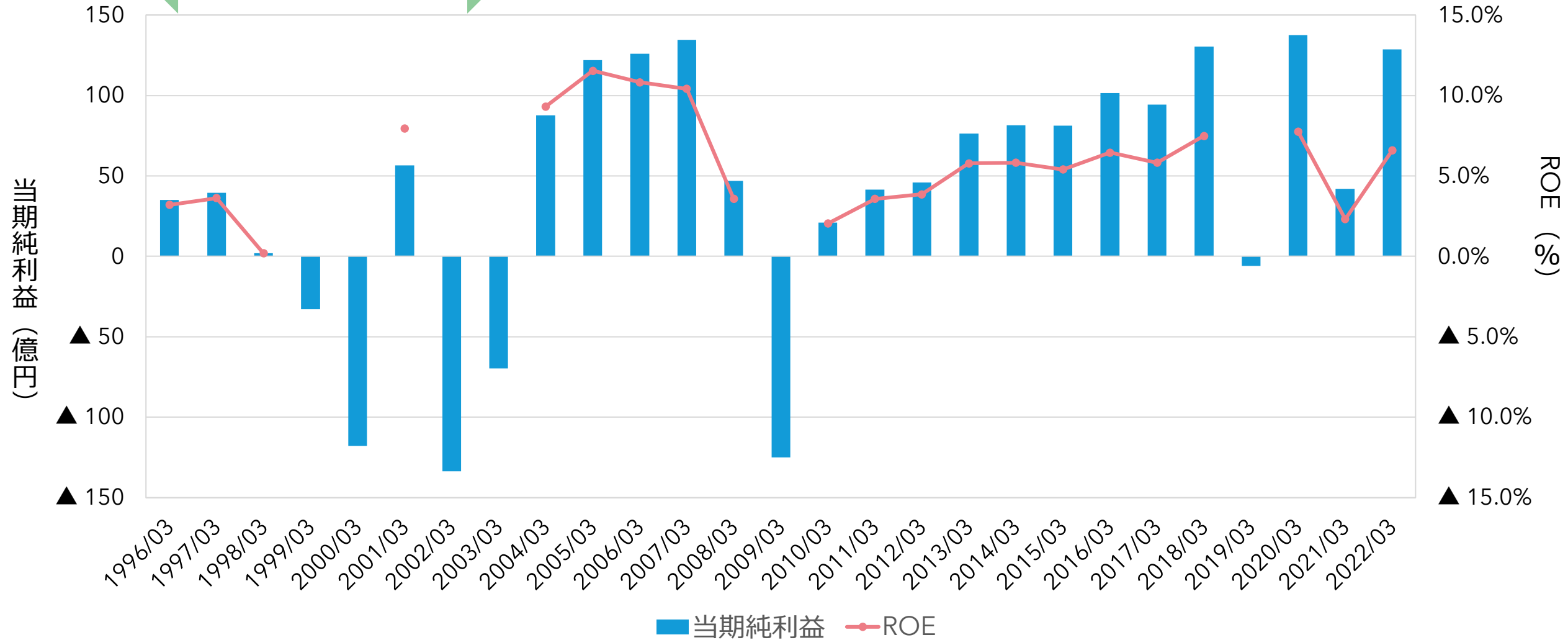


歩み② 収益性の推移



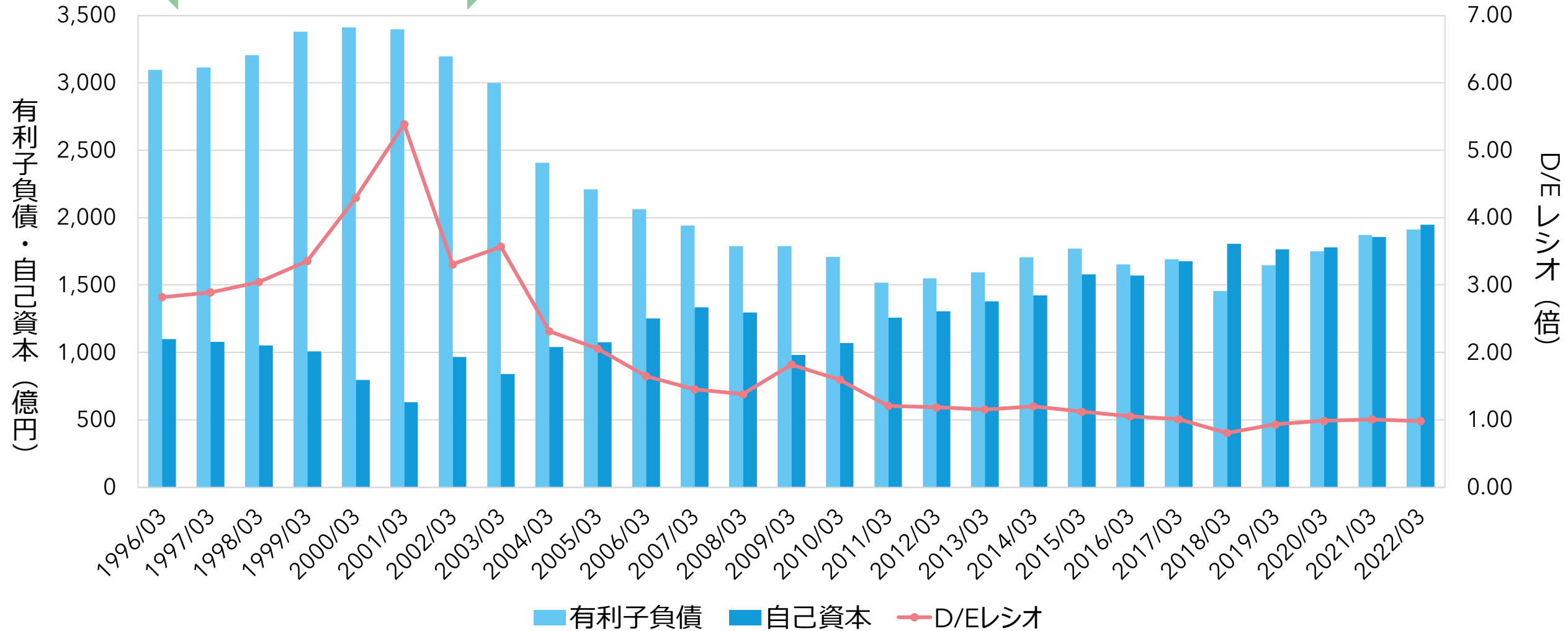
歩み③ 資本効率の推移

衣料繊維事業の構造改革



歩み④ 財務体質の推移

衣料繊維事業の構造改革



Ⅱ .サステナブル・ビジョン2030、2025中期経営計画

- サステナブル・ビジョン2030
- 2025中期経営計画（2022～2025年度）

長期ビジョン「サステナブル・ビジョン2030」を2022年5月に策定

現状認識と事業環境変化

サバイバル思考から、サステナブルな成長志向へ。

「赤字は悪」、「黒字は善」

- ・ 社会のサステナビリティに貢献する
- ・ サステナブルな（成長を実現する）会社になる

現状

- ① フィルムで成長実現も、グループ全体では横ばい
- ② ゆるぎない信頼の確立に向け、全社を挙げて取り組み
- ③ 強み：エッジのきいた製品・技術、生産基盤、人材、真摯さ

事業環境 変化大・急、非連続 → インパクト大

- ① ステークホルダー資本主義により企業のあり方も変わる
- ② 脱炭素、循環型経済、EV化
- ③ 技術進歩・実装の加速（DX、ライフサイエンスなど）
- ④ 国内市場漸減、資源高止まり、調達リスク
- ⑤ 人々の意識・価値観・行動の変容

サステナブル・ビジョン2030の全体像

『順理則裕』なすべきことをなし、ゆたかにする

めざす姿	Innovation 素材＋サイエンスで人と地球に求められるソリューションを創造し続けるグループになります				
2030年の社会変化・トレンド	安全・人権や社会正義への対応の標準化	医療アクセス・健康増進のニーズ拡大・多様化	人口動態変化・「人」中心のイノベーション・都市化の加速	脱炭素・資源循環・天然資源の制約	
貢献により解決する社会課題	People		Planet		
未来へつなぐチャレンジ	「現場が主役」従業員の安全・誇りとやりがい サプライチェーン全体の人権尊重	感染症分野へ貢献 QOL向上へ貢献	「人」中心のデジタル社会実現への貢献 快適空間の創造	カーボンニュートラルへ貢献 資源循環に向けたエコシステム形成	ソリューションを通じて環境を良質化 フードロス削減&サステナブル食品
2030年のありたい姿	Prosperity 安心してらせる「ゆたか」な社会の実現と企業価値向上のスパイラルアップ				

2030年のありたい姿

安心してらせる「ゆたか」な社会の実現と企業価値向上のスパイラルアップ

- ① 事業を通じて社会の課題解決に貢献
- ② 持続可能な成長（しっかりした土台＋未来への成長軌道）
- ③ 現場が主役（安全・安心な職場環境、誇りとやりがい、自己成長）

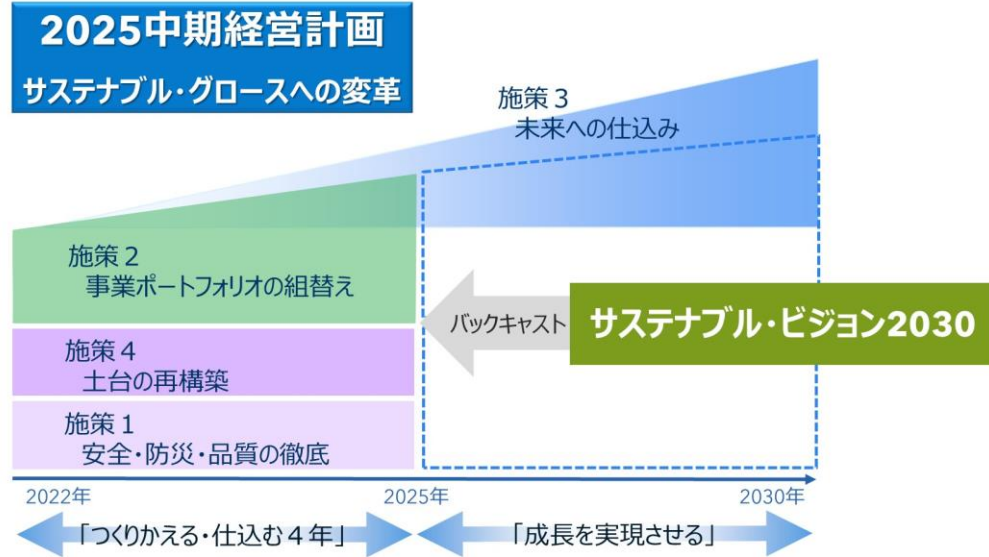
サステナビリティ指標

財務指標

重大インシデント	ゼロ	連結売上高	6,000億円
従業員エンゲージメントスコア	70%以上	営業利益率	8.3%以上
GHG排出量削減 2013年度比 2050年度 カーボンニュートラル	46%以上	ROE	9%以上
主力事業*における原材料のグリーン化比率 *フィルム事業を想定	60%	ROIC	7%以上

2025中期経営計画（2022～2025年度）① 全体像

基本方針と4つの施策

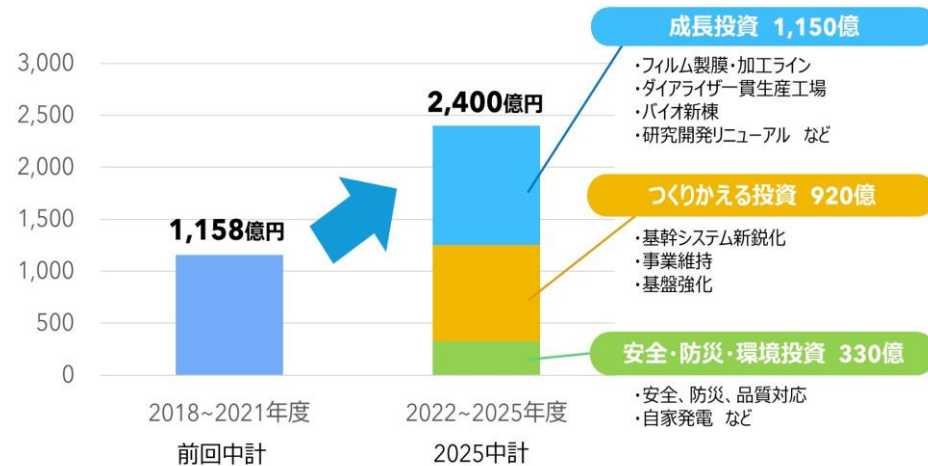


施策1	安全・防災・品質の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ●安全・防災マスタープランの実行「ゼロ災」 ●品質保証マネジメント体制の再構築 ●リスクマネジメント体制
施策2	事業ポートフォリオの組替え	<ul style="list-style-type: none"> ●事業を層別（使用資本利益率と成長性） <ol style="list-style-type: none"> ①重点拡大：成長策提案実行、競争優位強化 ②安定収益：成長探索 or 維持改善 ③要改善：あるべき姿に向けたマスタープラン実行
施策3	未来への仕込み	<ul style="list-style-type: none"> ●新事業・新技術の創出：環境・バイオ強化、みらいプロPOC ●DX戦略：SFA、MI、スマート工場、新たな稼ぎ方 ●カーボンニュートラルへのロードマップ（2050）
施策4	土台の再構築	<ul style="list-style-type: none"> ●人材開発・ダイバーシティ推進 ●モノづくり現場力 ●ガバナンス・コンプライアンス ●事業基盤の整備 ●組織風土改革

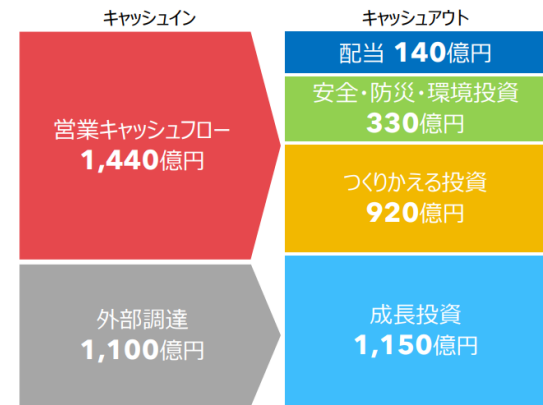
財務目標

	2021年度 実績	2025 中期計画目標	2030 イメージ
売上高（億円）	3,757	4,500	6,000
営業利益（億円）	284	350	500
営業利益率（%）	7.6	7.8	8.3
EBITDA（億円）	485	630	900
当期純利益（億円）	129	150	230
ROE（%）	6.8	≥ 7.0	≥ 9.0
ROIC（%）	5.1	≥ 5.0	≥ 7.0
D / Eレシオ（倍）	0.98	< 1.20	< 1.00
Net Debt / EBITDA倍率	3.4	< 5.0	< 4.0

設備投資計画



資本施策 キャッシュフローアロケーション



株主還元の方針

2025中期経営計画期間（2022～2025年度）は、総還元性向30%を目安 15

施策2：事業ポートフォリオの組替え

「収益性」「成長性」の2軸で各事業を4象限に評価・層別

●収益性：使用資本利益率（ROCE）＝営業利益÷使用資本 ※ハードルレート6.5%目安

●成長性：年平均成長率（CAGR） ※ハードルレート4.5%目安



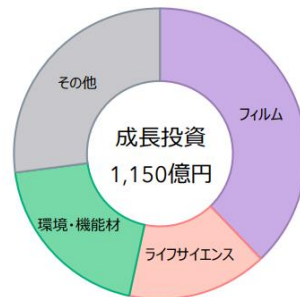
2025中計における拡大事業

- 「重点拡大事業」の**フィルム事業**、**ライフサイエンス事業**は引き続き、積極的な投資を実施
- 「安定収益事業」の**環境・機能材事業**は、三菱商事(株)との合併会社設立により、一層の拡大成長を目指す

要改善事業

- 衣料繊維、エアバッグ用基布、医薬品製造受託はそれぞれ2025年までの正常化を目指す

(注)10ページソリューション別の製品分類とは異なる。

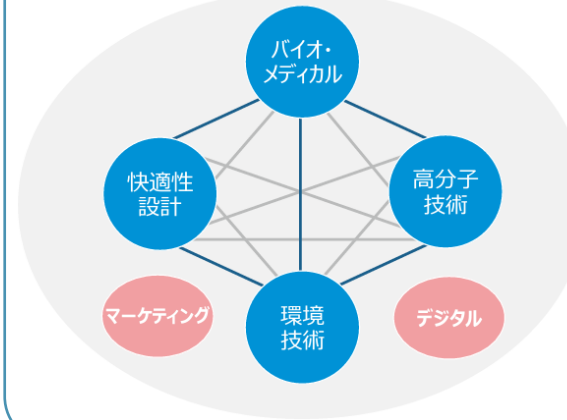


2025中計における成長投資内訳

施策3：未来への仕込み

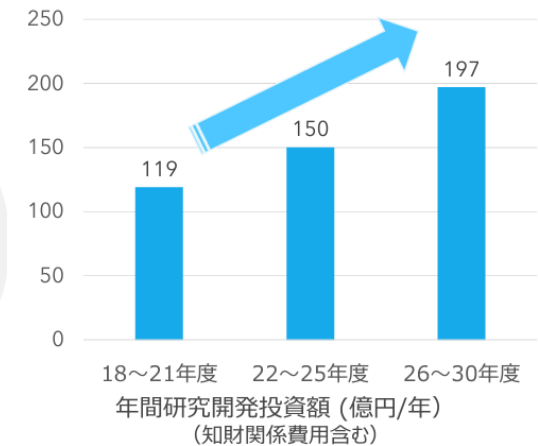
イノベーションの創出

4つのコア技術×マーケティング×デジタルによる「技術の融合」

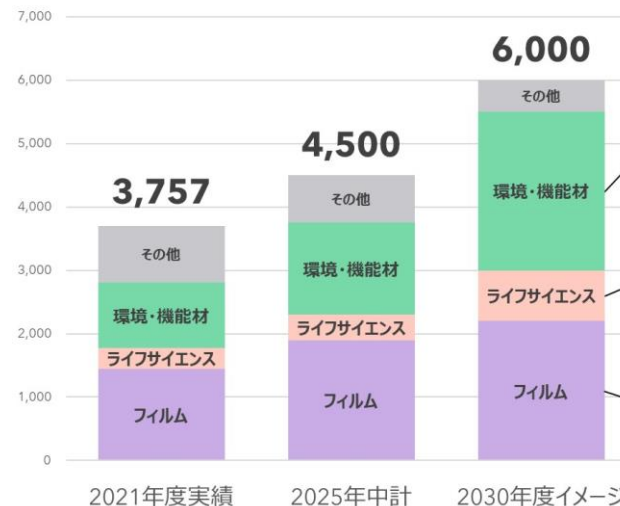


研究開発投資

売上高研究開発費比率 3.6～3.8%



当社グループ 売上高推移 (億円)



主な拡大事業

<ul style="list-style-type: none"> エンジニアリングプラスチック バイロン・ハードレン VOC処理装置 RO膜、FO膜 スーパー繊維 	環境・機能材
<ul style="list-style-type: none"> 感染症診断関連製品 人工腎臓用中空糸膜 ウイルス除去膜 血液浄化膜 	ライフサイエンス
<ul style="list-style-type: none"> セラコン用離型フィルム 透明蒸着フィルム 鋼板ラミネートフィルム 環境配慮型フィルム 	フィルム

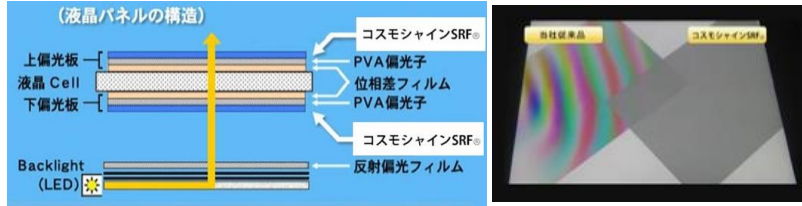
Ⅲ. 2025中期経営計画における拡大事業

- フィルム事業
- ライフサイエンス事業
- 環境・機能材事業

主要製品

工業用フィルム

素材：ポリエステルなど

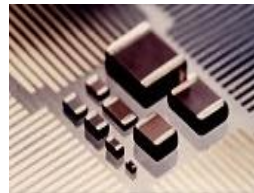


液晶偏光子保護フィルム“コスモシャインSRF”

- ・超複屈折ポリエステルフィルム ・複屈折による着色（虹むら）を解消
- ・強み：ハンドリング性（寸法安定性、低い反り性）、価格競争力
- ・液晶TVシェア：約50%（当社推定） ・今後の展開：薄肉化の追求

セラコン用離型フィルム

- ・強み：製膜からコーティングまで一貫製造、優れた平滑性を実現する製膜技術、汎用からハイエンドまでラインアップ
- ・最終製品：車載用途、スマホ用途に展開
- ・シェア：約25%（当社推定） グローバルでトップシェア



包装用フィルム

複数素材を保有：ポリエステル、ナイロン、ポリプロピレン、ポリエチレン
用途：食品包装用フィルム、缶ラミネートフィルム など
シェア：国内総合トップ（当社推定）



透明蒸着フィルム“エコシールド”

- ・アルミナとシリカの二元蒸着。柔軟性とバリア性の両立
- ・食品の賞味期限を延ばす ・市場：グローバルで10%/年の成長率

リサイクルPETフィルム“サイクルクリーン”

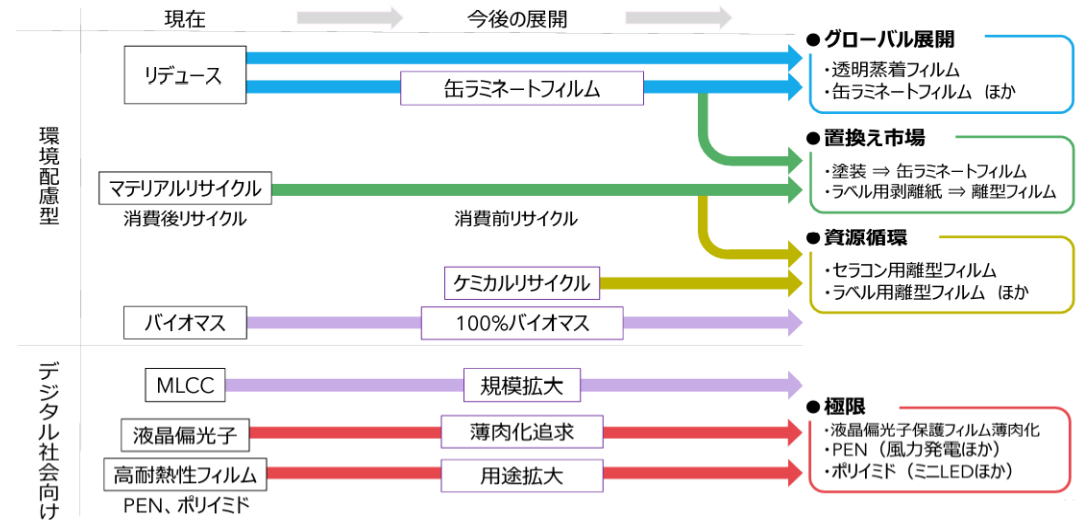
- ・リサイクル樹脂を80%以上使用、CO₂排出量を約20%削減

成長戦略

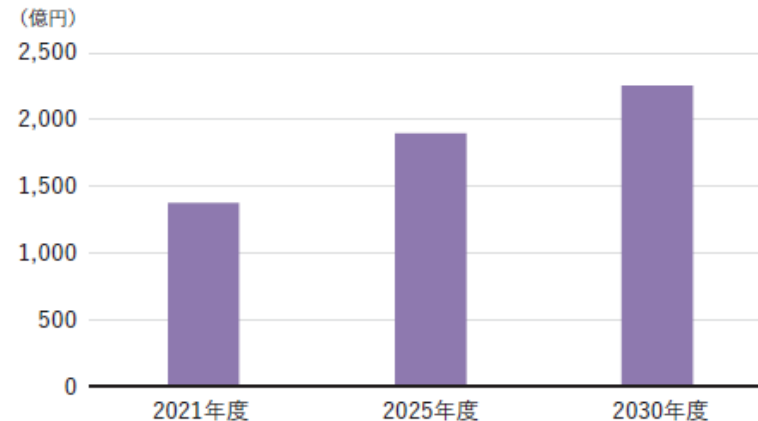
世界トップのグリーンフィルムメーカーへ

環境配慮製品へのシフト加速

グリーン化（バイオマス、リサイクル、減容化）比率
2030年度 60%、2050年度100%を目指す



売上高目標



設備投資

4年累計 約 880億円

- ・セラコン用離型フィルム新設備 200億円（2024年）
- ・包装用ポリエステルフィルム 製造設備増設（インドネシア） 100億円（2025年）

主要製品

➤ バイオ

強み：高機能タンパク質を作る技術



遺伝子検査用原料酵素・研究用試薬・診断システム

- 原料酵素例：PCR酵素
→高速増幅、コピーが正確、夾雑物に対して高耐性
シェア：国内約15% ← コロナ前約5% (当社推定) 国内トップ3
- 研究用試薬例：新型コロナウイルス検査キット→短時間での検査可能

生化学診断用原料酵素 (血糖、コレステロール、クレアチニンなど)

- 微生物の遺伝子組換え技術→機能改変・大量生産、品揃えが多い
- シェア：約25%(当社推定)、世界2位 ・海外売上高比率：約70%

➤ メディカル

中空糸分離膜：断面に微細な孔を形成した分離膜

強み：製膜技術 (孔径の制御・断面構造の設計)

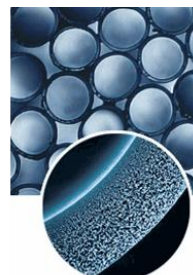


人工腎臓用中空糸膜

- セルロース系の膜による、優れた生体適合性
- シェア：グローバル6% (国内約20%、中国13%、他)

ウイルス除去膜

- 抗体医薬品の製造工程で、抗体とウイルスを分離する最終工程に使用。中空糸構造のため、処理量大
- 抗体医薬品は、10年間で約3倍の成長市場



□中空糸膜の断面拡大図

成長戦略

～グローバル・ニッチ・カテゴリーリーダー戦略～

目指すはグローバル・ニッチトップ！

➤ バイオ

感染症診断のソリューションビジネスで世界トップへ

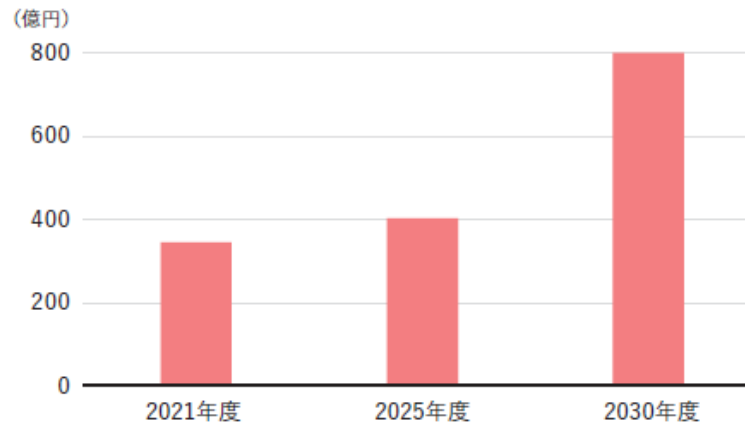
- 感染症ソリューションビジネスの拡大。原料から検査・診断まで一貫してソリューション提供できる業界No1プレイヤーをめざす
- 原料酵素をはじめとする海外展開の拡大

➤ メディカル

膜技術で、患者のQOLを向上

- 人工腎臓用中空糸膜製造の海外展開拡大
※ニプロ株式会社と共同で一貫生産工場の新設予定 (2024年)
商流：当社(製膜)→ニプロ(モジュール化、製品化)→国内外の病院
- 血液浄化膜、抗体医薬製造プロセス膜の用途拡大

売上高目標



設備投資 4年累計 約 200億円

- バイオ新棟 (2024年)
- メディカル研究所 (2024年)
- 人工腎臓用透析膜 工場建設 (2024年)

主要製品

VOC処理装置

- ・高性能な活性炭素繊維を用いたVOC回収装置
- ・工場排水の浄化や回収
- ・EV化に伴うLIB成長市場において、グローバル展開加速



“バイロン” “ハードレン”

- ・フィルム接着剤、ポリオレフィン用接着付与剤として使用される樹脂。接着性、耐久性等
- ・LIB、FPCの海外市場に向けて拡販



エンジニアリングプラスチック

- ・自動車部品用途が多くを占める
- ・軽量、耐熱性、良外観等の特長
- ・EV化の動きに応じた、軽量化・高機能化製品の海外拡販



海水淡水化用逆浸透膜

- ・耐塩素性に優れ、微生物汚染を防ぐ
- ・高温高濃度海水の中東湾岸諸国で高品質の生活用水を製造



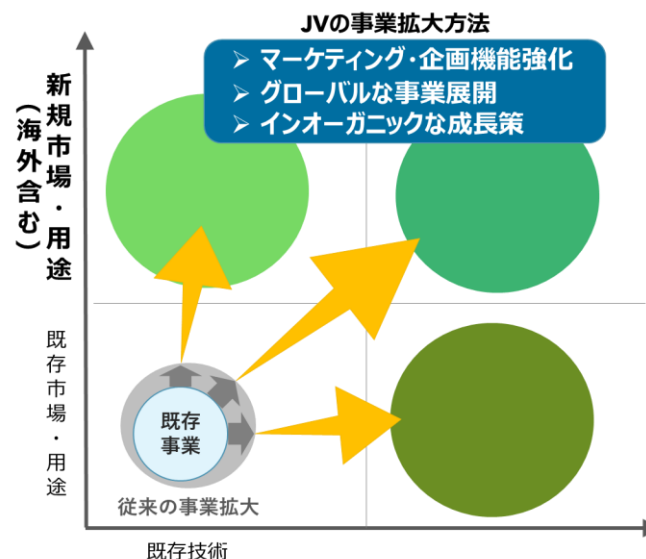
スーパー繊維

- ・“イザナス”：強度、軽量性、耐水性、衝撃吸収性など
- ・“ザイロン”：世界最高レベルの強度と弾性率、耐熱性など
- ・浮体式洋上風力発電用途に展開へ

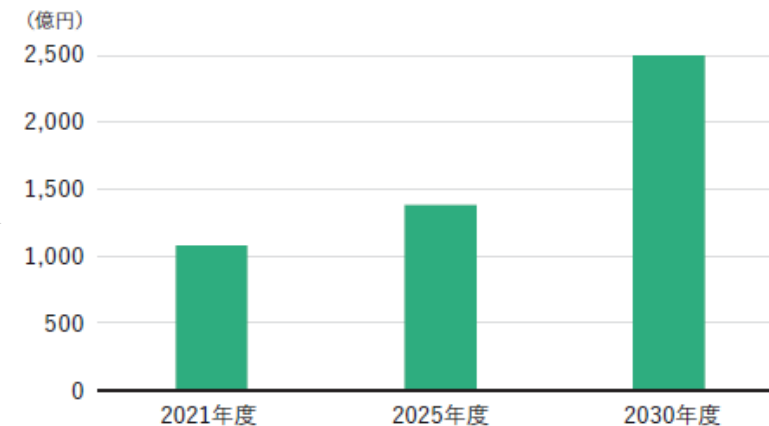
成長戦略

当社は三菱商事株式会社と、機能素材の企画、開発、製造および販売を行う合弁会社を設立し、事業を開始する契約を締結。設立した新会社に当社の環境・機能材事業を分割し、当社と三菱商事が出資。目的は、当社の技術力と三菱商事の総合力を融合し、グローバル市場でさらなる成長を実現すること。

- ・新会社商号：**東洋紡エムシー株式会社**
- ・出資比率：当社 51%、三菱商事 49%
- ・事業開始時期：2023年4月1日（設立：2022年9月5日）
- ・新会社に移行する事業：
 - 水、空気、軽量化、電池などの成長が期待される分野で貢献を目指す事業領域（売上高規模約1,000億円）



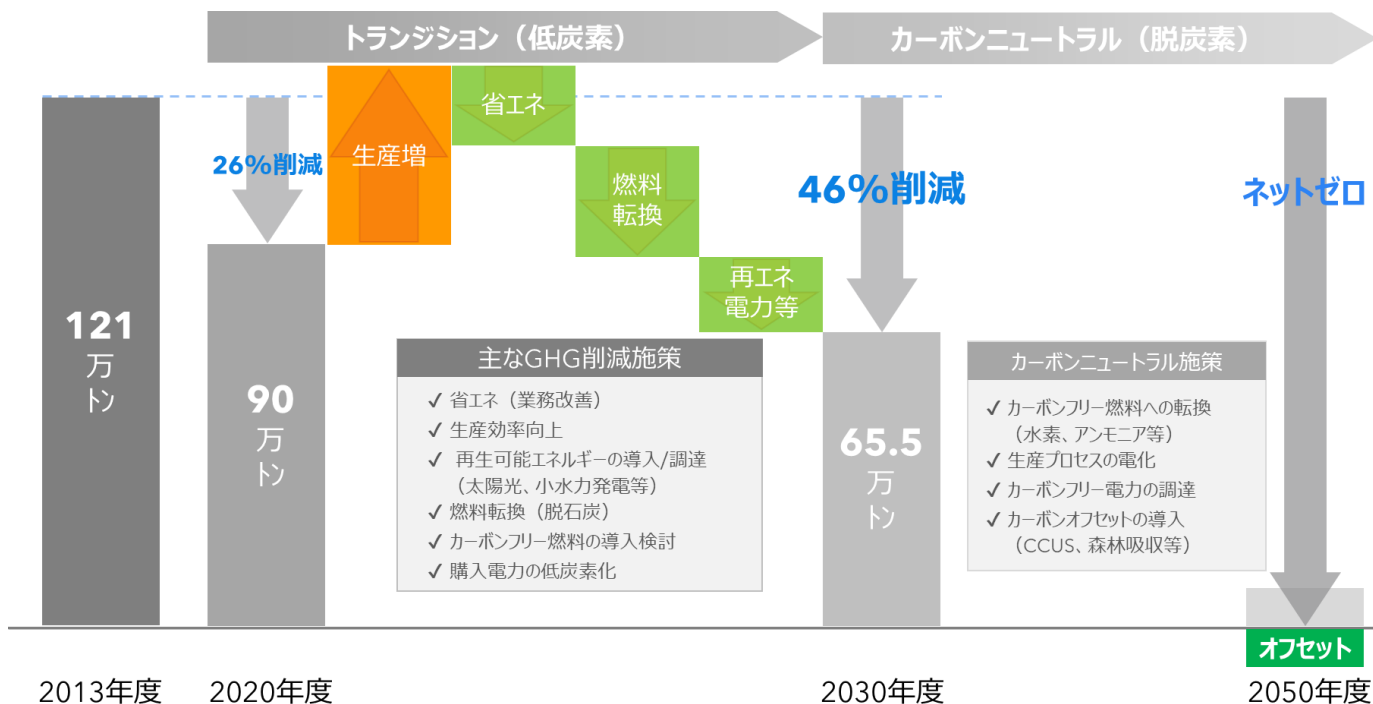
売上高目標



IV. ESG

- 環境 (Environment)
- 社会 (Social)
- ガバナンス (Governance)

◆カーボンニュートラルへのロードマップ^o (Scope1,2)



◆TCFD提言に基づく情報開示

「フィルム事業」を対象として、二つのシナリオ（2°C未満シナリオと4°Cシナリオ）に基づき、気候変動が事業に及ぼす影響を分析

◆インターナルカーボンプライシング制度導入（2022年4月）

社内炭素税価格 10,000 円/t-CO₂
設備投資計画におけるCO₂排出量増減に対し、社内炭素税価格を適用した費用を算出し、投資判断の参考に

◆社外評価

・GPIFが採用する日本株の5つのESG指数すべての構成銘柄に選定

FTSE Blossom Japan Index（2021年6月～）
FTSE Blossom Japan Sector Relative Index（2022年3月～）
MSCIジャパンESGセレクト・リーダーズ指数（2021年12月～）
MSCI日本株女性活躍指数(WIN)
S&P/JPX カーボン・エフィシエント指数



2022 CONSTITUENT MSCIジャパン ESGセレクト・リーダーズ指数

2022 CONSTITUENT MSCI日本株女性活躍指数 (WIN)



・CDP「サプライヤー・エンゲージメント・リーダー」に初選定（2022年2月）

CDPが実施する企業調査において、企業のサプライチェーン全体における気候変動に対する取り組みを評価
※CDP:世界的な環境情報開示システムを運営する英国の非営利団体

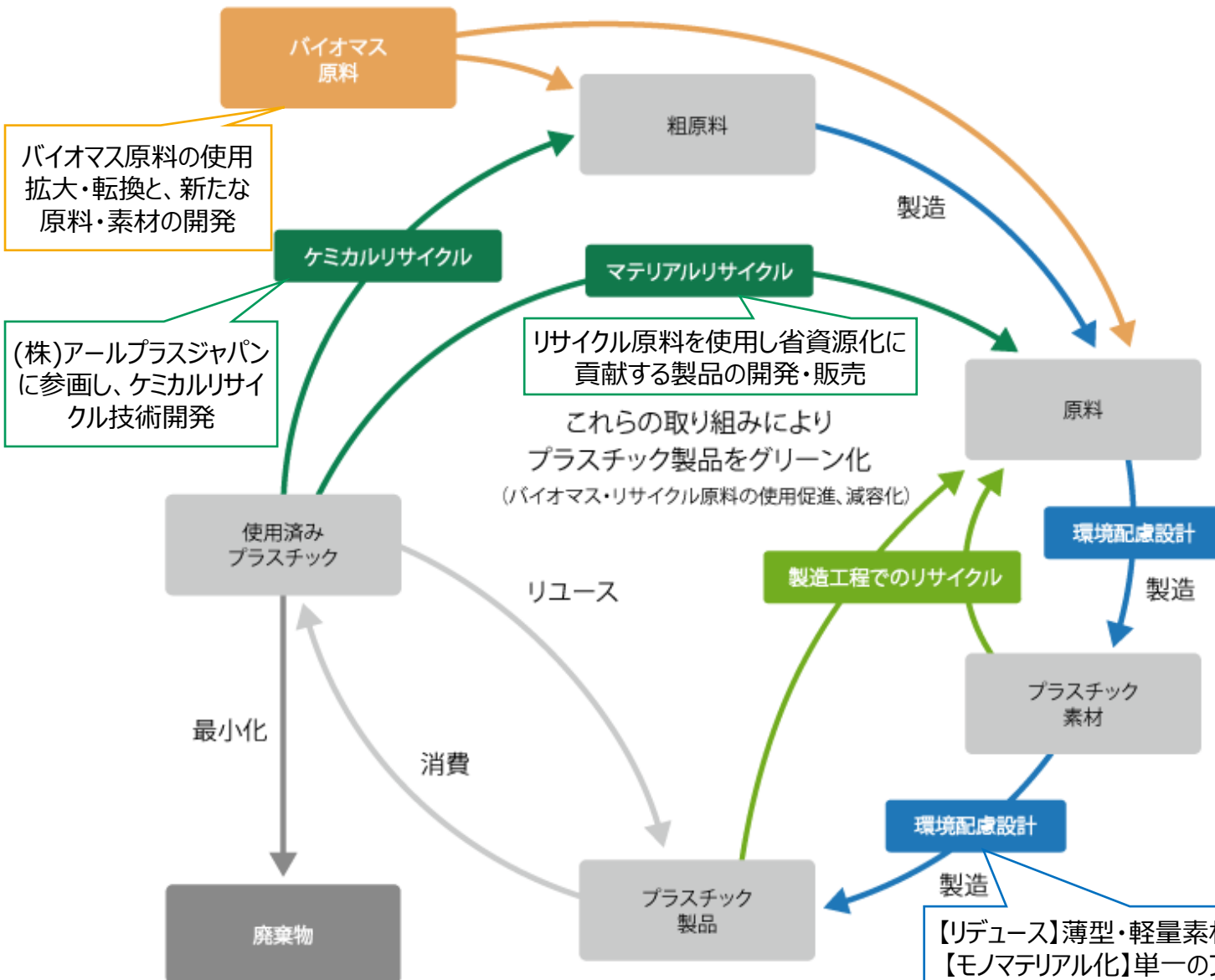


・SBT認定取得（2022年12月）

GHG排出量削減目標が科学的根拠に基づいた目標であるとして、SBTイニシアチブより認定
〈SBT認定を取得した目標〉
2030年までにGHG排出量を2020年度比で
Scope1,2 27.0%削減 Scope3 12.5%削減



◆プラスチックのライフサイクルと資源循環に向けた取り組み



◆環境配慮製品

1998年～ エコレビュー制度
 当社の「環境負荷低減に貢献する製品・技術」を定義し評価する仕組み。一定基準以上の評価を得たものを「エコパートナーシステム」製品として認定。



項目	2021年度実績	2030年目標
“エコパートナーシステム”製品の売上高比率(単体)	33.8%	40%

“エコパートナーシステム”製品例

中空糸型逆浸透膜

- ・海水から淡水を低エネルギーで生産可能な海水淡水化用の逆浸透膜
- ・主原料がバイオマス素材
- ・従来の「蒸発法」に比べて、CO₂排出量の大幅な削減が可能

VOC処理装置

- ・大気汚染や人体への影響が懸念されるVOC(揮発性有機化合物)の排出抑制
- ・塩化メチレン(EV用リチウム電池のセパレータ工程等に使用)などを回収
- ・独自の活性炭素繊維“Kフィルター”内蔵。高品質の溶剤回収と省エネルギー化が可能



【リデュース】薄型・軽量素材の開発・製品化
 【モノマテリアル化】単一のプラスチックで構成

◆人材育成方針

一人一人が成長を感じ、誇りとやりがいを持って働くことができる

- ・新人事制度（2022年7月～）
 - 昇格要件の見直し（年功序列運用からの脱却）
 - 人材会議（経営人材の早期育成に向けた施策討議）
 - プロフェッショナル職（高度な専門性を持つ人材を処遇）
 - 職能給・本人給の見直し、シニア社員制度の拡充
- ・中核人材の多様性
 - 高度なスキルを持つ中途採用者を積極的に管理職へ登用
⇒管理職に占める中途採用者の比率 20%以上

◆従業員エンゲージメント（2021年～）

- ・「組織風土・働きがい調査」を開始、全役員・全従業員を対象
- ・従業員の「働き方肯定度」の向上
従業員エンゲージメントスコア目標 70%以上（2030年度）

◆ワークライフバランス

- ・制度の整備：育児短時間勤務、介護休職、フレックスタイム、テレワーク（在宅勤務）など

◆ダイバーシティ&インクルージョン

■ 2025年度目標

管理職に占める女性比率	5.0% 以上	(2021年度:3.7%)
総合職の女性比率	22% 以上	(2021年度:17.3%)
男性の育児休業取得率	80% 以上	(2021年度:64%)
取得日数	20% 以上アップ	(2021年度:9日)

■ 取り組み

- ・グローバルコースの新卒採用の女性比率40%を継続（直近5年間平均 約37%）
- ・エリアコースの女性従業員向け「キャリア開発支援プログラム」21年度開始
- ・ベビーシッター支援制度、企業内保育所（利用者累計 33人／4年）
- ・男性の対象者に育児休職制度の通知、上司宛てにも取得推奨案内を送付

◆社外評価

「健康経営優良法人2023 ホワイト500」初認定

経済産業省と日本健康会議が共同で実施する制度



「えるぼし」認定取得*

女性活躍推進法に基づき、女性の活躍推進に関する取組の実施状況が優良な企業を認定する制度 *2022年時点（2つ星）

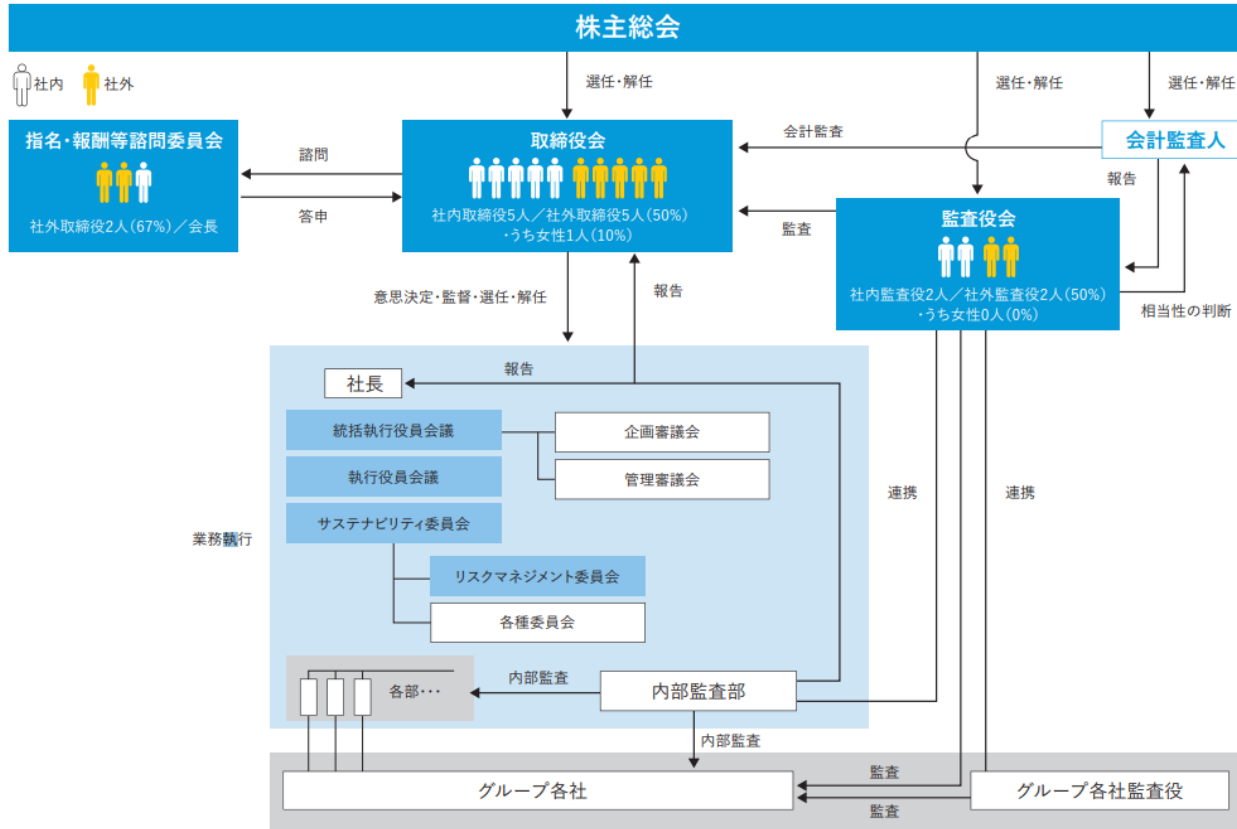


「くるみん」認定

「子育てサポート企業」として、厚生労働大臣の認定を受ける



◆コーポレート・ガバナンス体制 (2022年6月現在)



◆コーポレート・ガバナンス強化への取り組み

- ・2019年より、女性の社外取締役を登用して、多様性確保
- ・2022年より、独立社外取締役を1名増員して5名に社外取締役比率50%とし、モニタリングを強化。経営全般のスキル充実

取締役のスキルマトリックス (2022年6月現在)

	氏名	役職	当社が求める経験・素養のうち、特に生かすことができるスキル					海外経験
			経営全般	事業運営・営業	生産技術・研究開発	財務・会計	リスク管理・コンプライアンス	
社内	橋原 誠慈	取締役会長	○			○		○
	竹内 郁夫	代表取締役社長兼 社長執行役員	○	○				○
	森重 地加男	代表取締役兼 副社長執行役員	○	○	○			
	大槻 弘志	代表取締役兼 専務執行役員				○	○	
	大内 裕	取締役兼 常務執行役員		○				○
社外	中村 勝	社外取締役	○	○				○
	磯貝 恭史	社外取締役			○			
	桜木 君枝	社外取締役		○			○	
	播磨 政明	社外取締役					○	
	福士 博司	社外取締役	○	○	○			○

◆役員報酬制度の見直し (2022年7月～)

基本報酬 : 短期インセンティブ報酬 : 長期インセンティブ報酬 = 6 : 3 : 1 を目安
 (役位別定額部分) (前年度の全社業績評価および担当部門業績評価を反映 ※1) (譲渡制限付株式報酬) (7:2:1から比率変更)

※1

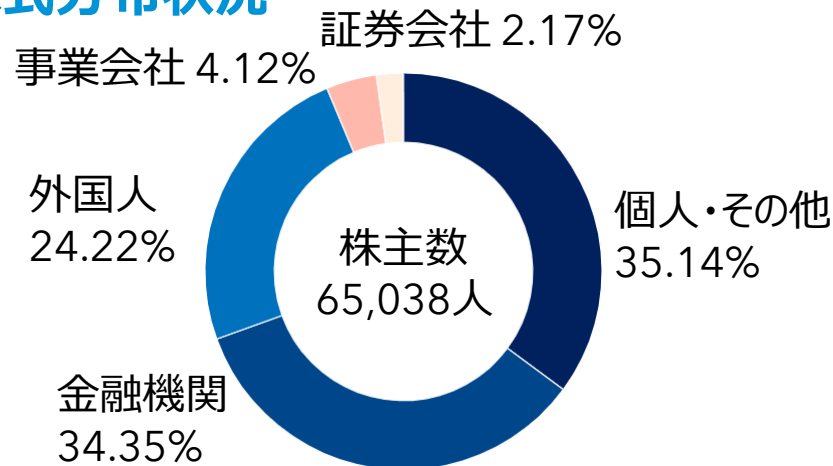
- ・全社業績評価は、2025中期経営計画の目標と連動。KPIは営業利益からEBITDAに変更
- ・担当部門業績評価は、営業利益やROAの改善度などにより総合的に判断

V. 株式情報

上場証券取引所	東京証券取引所 プライム市場
証券コード	3101
発行可能株式の総数	200,000,000株
発行済株式の総数	89,048,792株 (自己株式68,074株含む)
資本金	51,730百万円

(2022年9月30日現在)

所有者別株式分布状況



(2022年9月30日現在)

格付情報

格付機関名	発表日	格付
株式会社格付投資情報センター (R&I)	2023年1月31日	A-
株式会社日本格付研究所 (JCR)	2023年2月20日	A

株価の推移 (過去5年間における最高値/最安値)

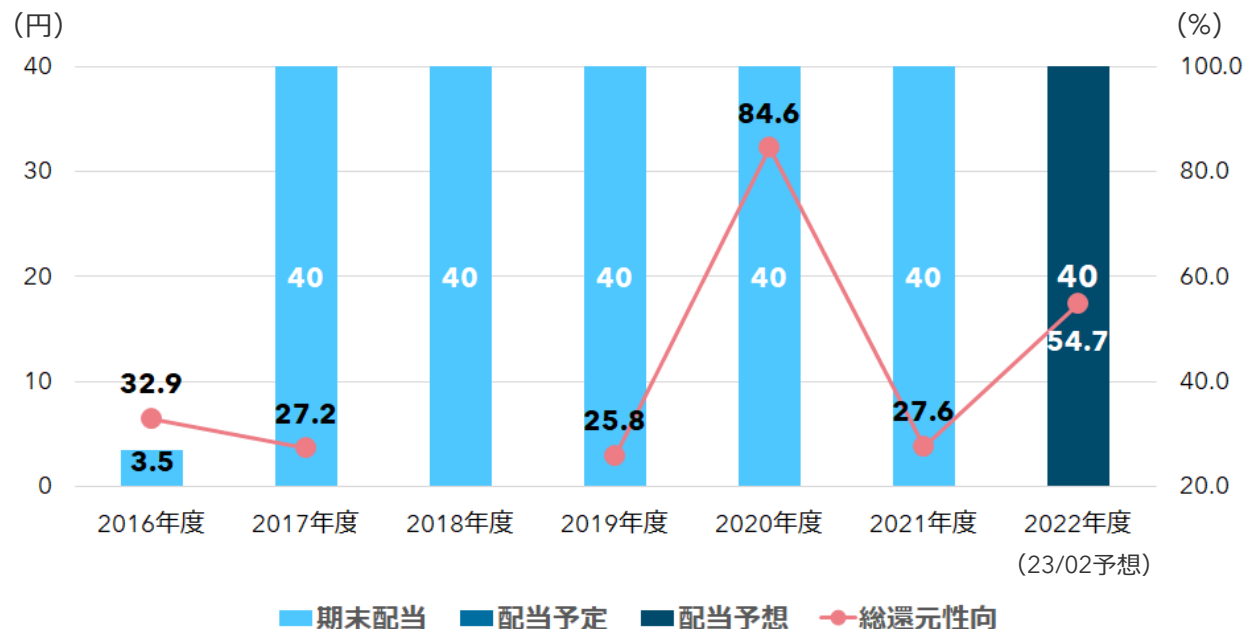
年度	2017	2018	2019	2020	2021
最高値 (円)	2,249 (218)	2,164	1,684	1,687	1,505
最安値 (円)	1900 (184)	1,386	903	1,033	1,046

1. 東京証券取引所市場第一部における株価です。
2. 2017年度の株価については株式併合後の最高・最低株価を記載し、() 内に株式併合前の最高・最低株価を記載しています。

利益配分の基本方針

総還元性向(※) 30% を目安

(※) 総還元性向 = (配当総額 + 自社株買い総額) ÷ 親会社株主に帰属する当期純利益



VI. リンク集

投資家情報 トップページ <https://ir.toyobo.co.jp/ja/ir.html>

✓ 決算説明会資料 <https://ir.toyobo.co.jp/ja/ir/library/presentation.html>

✓ サステナブル・ビジョン2030 https://www.toyobo.co.jp/sustainability/group_sustainability/vision/

✓ 2025中期経営計画（2022～2025年度） <https://ir.toyobo.co.jp/ja/ir/library/plan.html>

✓ 統合報告書2022 <https://ir.toyobo.co.jp/ja/ir/library/integrated.html>

✓ 事業説明会（フィルム、ライフサイエンス） <https://ir.toyobo.co.jp/ja/ir/library/meeting.html>

✓ ファクトブック <https://ir.toyobo.co.jp/ja/ir/library/fact.html>

✓ 会社案内 <https://www.toyobo.co.jp/pdf/company/profile/companyguide.pdf>

本資料中の見通しや目標等、将来に関する記載事項は、本資料作成時点において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績等は、今後の種々の要因によって、本資料の記載事項と異なる場合がありますことをご了承ください。

東洋紡株式会社

TOYOBO
Beyond Horizons